

熊本県立八代中学校 令和5年度(2023年度)学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>「令和5年度(2023年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」及び「学校安全・安心推進課取組の重点」を基盤として本校の綱領である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere. ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined. ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded. <p>を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>八代高校・八代中学校のさらなる魅力化</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 確かな学力の土台となる授業力の向上(学びの深化) ② 豊かな人間性を育む多様な教育活動(自律と協働) ③ 世界とつながるグローバル人材の育成(進路の進化) ④ 地域との連携(高い情報発信力) ⑤ 生徒理解の促進(一日1人面談)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルを身に付けるための基礎力養成	○総合的なコミュニケーション能力育成のために、学校設定教科「対話力」を効果的に実施する。 ○各種ボランティア活動への自主的参加者年間延べ150名以上を目指す。	・NIE、ディベート、ビブリオバトル、知の触発等の活動を充実させ、言語活用能力やコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・HPにおいてグローバルアクション通信を公開し、情報発信を行う。	B	・NIE、日本語や英語ディベート、英検対策、ビブリオバトル等々充実した取り組みを行うことができた。「知の触発」では社会で活躍される方々の講演会を実施することができた。一方でSSTが入ったことにより各取組の実施回数自体が減少した。 ・HP及びGoogle Classroomで各種案内を頻繁に発信した。
	情報発信	◇職員情報発信力の向上、並びに八代中学校への志願者増加	○本校の教育活動や生徒の様子等をタイムリー、かつ、継続的に発信し、本校の魅力を伝える。 ○「対話力」の授業をホームページにアップする。 ○本校志願者数100名以上	・「対話力」についてより効果的な実施という観点から計画を見直し、内容を精選する。 ・英検対策や知の触発プログラム講演会をタイムリーにホームページにアップする。	A	・「対話力」の時間は、計画の調整や見直しを行いながら、授業を実施することができたが、SSTが入ったことで実施回数が半分になった取組もある。より精選する必要がある。 ・HPも頻繁に更新し、地域への案内の配付、週1回の説明会の実施など周知活動に努めた。志願者数は128名、昨年比0.06ポイント増となり、目標値及び昨年度を上回った。
	業務改善及び働き方改革の推進	◇勤務時間の適正管理 ◇業務の削減・効率化	○月の時間外在校等時間平均を前年度比で10ポイント削減する。 ○校務においてICTをこれまで以上に活用し、配付資料や会議資料のペーパーレス化を進めたり、専門家を有効活用し、計画的に業務を遂行する。	・タイムカード等による勤務時間の適正管理等に加え、管理職による業務進捗管理や面談を行う。 ・ゆうネットやGoogleアプリを活用した情報共有を更に推進し、業務効率化を進める。 ・SC、SSW、部活動指導員等の専門的人材を積極的に活用する。	B	・タイムカード等により在校時間を把握し、長時間勤務が認められる教職員には管理職による面談を実施して状況を把握した。 ・月の時間外在校等時間平均(4月～12月)は、昨年度47時間21分から今年度51時間22分になり、前年度比3.5%増加となった。 ・スクールカウンセラーの活用については12月までに計28件の相談があった。 ・部活動指導員を2人配置し、生徒の技術の向上や教職員の負担軽減に成果を上げている。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用力の3要素を踏まえた授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が85%を超える。	・授業力向上のため、公開授業週間の設定、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ授業を、各教科で常時実施する。	A	・公開授業週間を年に2回設け、教科毎に研究授業を行った。 ・各学期毎に授業評価を行い、ICTの活用が3.44、授業に集中できているの項目が3.48であり、目標を達成することができた。 ・ICTの研修はすぐる、デジらく採点等の研修を行った。

	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○学年ごとの目標学習時間を設定し、60%以上の生徒が目標を達成している。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における適切な目標学習時間を設定する。 ・各教科において、週末課題など家庭学習の支援を行う。 ・朝の振り返りを実施し、家庭学習の指導に活用する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の振り返りシートを用いた家庭学習時間の調査を行った。目標時間に届いていない生徒の方が多数であるため、入力 of の徹底も含めて、生徒への声かけなどが必要である。
キャリア教育(進路指導)	進路目標の明確化と大学入試新テストに対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グラウンドデザインの完成	○大学入試新テストを受ける生徒に求められる学力を育成するための、6年間の指導方針を完成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の学力推移調査の結果をもとに学力検討会を行い、課題点や進路意識を把握し、教科指導や進路指導に活かすなど共通理解を図る。 ・様々な自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力推移調査結果をもとに学力検討会を開催。各教科で生徒の強みを伸ばし、弱みを克服することを目的とした取組について共通理解を図った。 ・3年生はハイレベル模試を実施し、約33%の生徒が受検し、実力を確認するとともに必要とされる学力を身につける必要性を認識した。(昨年度約36%) ・1年生は県立大学訪問をとおして大学の概要を学んだ。2年生は進路資料を用いて学部学科を調べたり、熊本大学発生医学研究所を訪問して先端科学技術に触れた。3年生は個人面談により目標の明確化を図った。
	生徒の進路観、職業観の育成	◇個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。 ・キャリアパスポートの活用を行い、自己の進路意識を確認する場を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルアクションミーティングに中学生も少ないながら参加した。 ・学期ごとにGoogleFormを活用し、当学期中の取組について整理し、自己評価を行った。 ・1年生は八代学で地域社会の課題への認識を深め、地域課題への関心を高めた。2年生はインターンシップを3日間実施し職業観と勤労観を涵養し、レポートにまとめ発表することができた。3年生は卒論執筆を通して自己の興味関心を認識し、進路意識を高めた。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範	○5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整備を自ら行うことができる生徒を育成する。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導していく。 ・教員同士及び教員と保護者との情報交換を密に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝学級担任を中心に登校状態や体調確認等を実施し、生徒の状況把握に努めた。出席状況や整容・行動・様子などで気になる生徒については、学年毎の朝の打合せで情報を共有し、迅速な対応を図った。また、定期的な中学部会において気になる生徒について情報交換を行い、生徒理解に努めた。
	生徒の危機管理能力の向上	◇登下校時の緊急事態への対応 ◇SNS等の不適切な使用法への対応	○交通マナーを遵守し、登下校時における交通事故の防止に努める。 ○登下校時の不審者事案などに対して適切な対応ができるようにする。 ○「ネット依存」や、不正請求などの「ネット被害」、SNSによるトラブルなどへ適切な対応ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○被害者・加害者にならないために交通事故に関する情報提供を行う。 ○防犯メール等を確認する習慣を身につけさせ、自分の身は自分で守ることを意識させる。 ○適切にICTを活用し、情報社会を安心・安全に生き抜くため情報を生徒・保護者へ提供する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな交通事故はないが、車や自転車同士の軽微な接触事故があった。長期休業前の諸注意で交通ルール遵守を注意喚起した。 ・ネットを介しての重大な事故・被害はなかったが、友人同士の軽微なトラブルが続いている。長期休業に入る前に注意喚起を行ったが、SNSの不適切な使用は今後も続くことが懸念されるため継続した指導が必要である。

	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	<p>◇地域の人権課題の実状を踏まえた人権意識の向上</p> <p>◇人権問題に関わる実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組</p>	<p>○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。</p> <p>○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。</p>	<p>・人権部落問題学習(学年ごとに学期1回)及び校内人権集会(2回)を実施するとともに、地域の子ども人権集会への参加を呼びかける。</p> <p>・八代地区人権同和教育・人権啓発研究集会(原則全員)及び現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。</p> <p>・人権教育通信を学期2回以上発行し、啓発を図る。</p>	A	<p>・人権部落問題学習を各学年で企画し、水俣病をめぐる人権問題や男女共同参画のあり方、部落差別の歴史等について学んだ。人権集会では、SNSでの差別や部落差別に関して、当事者の講話を聞き、部落問題の基本的な認識を再確認するとともに、SNSの問題点を確認することができた。</p> <p>・八代市の研究集会や、現地研修会に参加し、地域の人権部落問題について深く学び、自らの実践を振り返った。</p> <p>・人権教育通信を年間8回発行し、人権に関する啓発に努めた。</p>
人権教育の推進	生徒が適切な教育上の支援を受けられる体制の整備	<p>◇個々の多様性(障がいの有無や性別の違いなど)を認識しお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組</p>	<p>○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。</p> <p>○個別の教育支援計画及び指導計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。</p>	<p>・教育相談週間を設け、丁寧に生徒の状況を把握するとともに、授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。</p> <p>・定期的に入権教育推進部会を開催し、情報共有を図るとともに、特別支援教育委員会を適宜開催する。</p> <p>・個別の教育支援計画及び指導計画を立て、それに基づき支援を進める。</p>	A	<p>・学期ごとに生徒理解研修を実施し、支援を要する生徒に関する情報を共有すると共に、支援のあり方に関して職員の共通理解を図った。また、学年会や人権教育推進部会、特別支援委員会において週に1回生徒の情報交換を行い、支援状況の確認や教育支援計画の見直し、対応について協議した。</p> <p>・特別支援委員会を適宜開催し、協議の上、対象生徒の個別の教育支援計画を作成した。保護者と連携して、合理的配慮を行い、支援体制の充実を図った。</p>
	命を大切にすることを育む指導	<p>◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成</p> <p>◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成</p>	<p>○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。</p> <p>○社会貢献活動や自己研鑽活動をとし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。</p>	<p>・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を高める学習指導を行う。</p> <p>・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。</p>	A	<p>・職員研修において、部落差別の問題をはじめ、人権感覚を磨くために必要な人権問題全般の情報更新をすることができた。</p> <p>・人権集会や学年集会、人権教育通信などを通じて、被差別状況にある当事者の思いに触れさせることを心がけ、人権意識の高揚を図った。</p>
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	<p>◇いじめを未然に防ぐための予防的取組</p> <p>◇いじめの早期発見と早期対応</p>	<p>○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。</p> <p>○定期的なアンケート調査により、いじめの早期発見に努める。</p>	<p>・学期に1回「心のアンケート」を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。</p> <p>・学期に1回いじめ防止対策委員会を開催し、実態把握と早期発見・対応を行うとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。</p>	B	<p>・教育相談や各種アンケートを通じて、生徒の実態把握をした。学期に1回行う心のアンケートや教育相談週間をもとに生徒の実態を的確に把握するとともに、問題の早期解決のため個別面談、周囲への聞き取りやいじめ防止対策小委員会等を行い対応した。今後、さらに早期発見・早期対応に努め、組織として問題解決に取り組む、生徒が安心して学校生活を送れるよう、実効性がある工夫した取組が求められる。</p> <p>・いじめ防止対策委員会を学期に1回開催し、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの防止と対策に努めた。また、スクールカウンセラーや関係機関と連携し支援体制の構築を図った。</p>
地域連携(コミュニティスクールなど)	コミュニティスクールの活性化	<p>◇地域とともにある学校づくり</p>	<p>○総合型コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を通して、育成を目指す生徒像の共有を図り、地域と連携・協働した取組を推進する。</p>	<p>・「総合的な学習の時間」において、地域と連携した探究活動を実施する。</p> <p>・地域の理解と協力を得ながら、防災教育等を進め、生徒の安全・安心を確保する。</p>	A	<p>・地域の史跡巡り、地域でのフィールドワーク、地域の方を講師として招きお話を聞くなどの取り組みを行い、地域振興を目標に探究活動を行った。</p> <p>・1学期にシェイクアウト訓練。2学期には地震を想定した訓練を実施。2学期は実施予定日を知らずに行うことで緊張感があり、より実践的に行えた。3学期では津波を想定した訓練を実施する。</p>

4 学校関係者評価

- ・令和5年12月、保護者及び生徒、教職員を対象に学校評価アンケートを実施した。評価項目数は、保護者21項目、生徒19項目、教職員23項目であり、評価平均は保護者2.9、生徒3.3、教職員3.1(4段階)であった。
 - ・三者とも小項目「グローバル人材育成」における評価は高かった。
 - ・一方、「家庭学習時間の確保(生徒)」や「宅習時間調査を活用した指導(教職員)」では評価が低かった。
 - ・今年度重点的に取り組んだ「情報発信」について、「本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えていく」という項目については、保護者2.8、生徒3.0、教職員3.1という結果であった。
- ・令和5年11月、協議会委員を3つに分け、学校運営支援委員会、防災対策支援委員会、地域連携支援委員会を開催。
 - ・中学の学校説明会の参加者が昨年度より少なかったのは少子化の影響か。海外研修の復活が望まれるのではないか。
 - ・国際バカロレアの導入においては、様々な取組が行われ充実している。
 - ・宅習時間については、時間を伸ばすだけでなく質の向上を促してほしい。
 - ・八高生は舞台が与えられたらものすごく頑張る。
 - ・探究で調べた防災の内容を地域の子供たちに教えていくと連携につながる。
 - ・自転車のマナーでは、右側通行やイヤホンを使用したままの登校が見られ危険である。ルール of の徹底について指導をお願いしたい。
- ・令和5年12月25日、第2回学校運営協議会を開催。内容は、11月の委員会の報告と情報共有。以下は、委員からの主な御意見等。
 - ・生徒が作成している本町アーケードの防災マップに期待している。
 - ・自転車のヘルメット着用率はどれくらいであるか。
 - ・月に1回街頭補導を行っているが、高校生が補導されることがある。
 - ・市のイベント等に高校生が参加しており、協力に感謝している。
- ・令和6年2月15日、第3回学校運営協議会を開催。内容は、今年度の学校評価と次年度の計画。以下は、委員からの主な御意見等。
 - ・探究活動などで発表など前に出て体験することは将来の自信につながる。
 - ・朝の振り返りシートの活用を期待する。
 - ・SNS上のトラブルについて、早期の把握と対応をお願いしたい。
 - ・生徒理解において、1日1人面談などで生徒との距離感が感じられなくなることを望む。
 - ・校則の見直しにおいて、下校時の服装が部活動着を許可したことで、八高生と分からなくなっている気がする。
 - ・本年1月1日に能登半島地震が発生し、石川県を中心に甚大な被害となった。八代市もいつ大きな地震が発生してもおかしくない状況であり、先生方・生徒のみなさんの防災意識の向上と、訓練の実施を次年度も引き続きお願いしたい。
 - ・自転車のヘルメットの取り扱いについては、市と連携して取り組むことができると良い。
 - ・勉強という言葉にはネガティブ感がある。自分が持っている能力を引き出す、というイメージが必要。

5 総合評価

- ・本年度は、重点目標として「① 確かな学力の土台となる授業力の向上(学びの深化)」 「② 豊かな人間性を育む多様な教育活動(自律と協働)」 「③ 世界とつながるグローバル人材の育成(進路の進化)」 「④ 地域との連携(高い情報発信力)」 「⑤ 生徒理解の促進(一日1人面談)」を掲げ、教育活動を行ってきた。
 - ・「3 自己評価総括表」で掲げた14の小項目については、保護者、生徒、教職員による学校評価アンケートや学校運営協議会委員の御意見等を踏まえ、A評価6、B評価8(前年度は、A評価5、B評価8、C評価1)とした。
 - ・「①学びの深化」について、小項目「教師の指導力向上」では、授業評価や公開授業週間の実施、ICT研修等を行い、生徒による授業評価では、授業改善の工夫において生徒の評価が高い。一方、生徒の宅習時間は、学校評価アンケートでも、学習意欲を喚起する取組(保護者)や家庭学習時間を確保できていない(生徒)、宅習時間調査を家庭学習等の指導に活用(職員)の項目で評価が低く、本校の課題の一つと考えられる。
 - ・「②自律と協働」について、大項目「地域連携」に記載のとおり、地域の協力を得ながら探究活動に取り組むことができ、次年度以降も探究活動等を中心に、地域と連携を図りながら教育活動を推進していきたい。
 - ・「③進路の進化」について、小項目「グローバル人材育成」では、講演会を複数回実施するなど、様々な取組を行うことができた。また、小項目「生徒の進路観、職業観の育成」では、1年で地域社会の課題等への認識を深める「八代学」を、2年では様々な職業の方から話を聞き、職業観を養い、3年では、卒業論文の執筆を通して進路意識を高めることができた。
 - ・「④高い情報発信力」について、小項目「情報発信」では、本校の教育活動を広く地域の方々にお知らせするHPにおける発信を行った。また、地域の小学校、塾等に複数回訪問、週1回の説明会の実施で本校の教育活動及び令和6年度から導入予定のIB教育について周知を図った結果、志願者数増となった。
 - ・「⑤一日1人面談」について、小項目「生徒が適切な教育上の支援を受けられる体制の整備」では、教育相談週間の実施や生徒理解研修の実施から、生徒一人一人への支援に取り組むことができた。

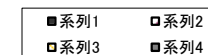
6 次年度への課題・改善方策

次年度への主な課題と改善方策は次のとおり。

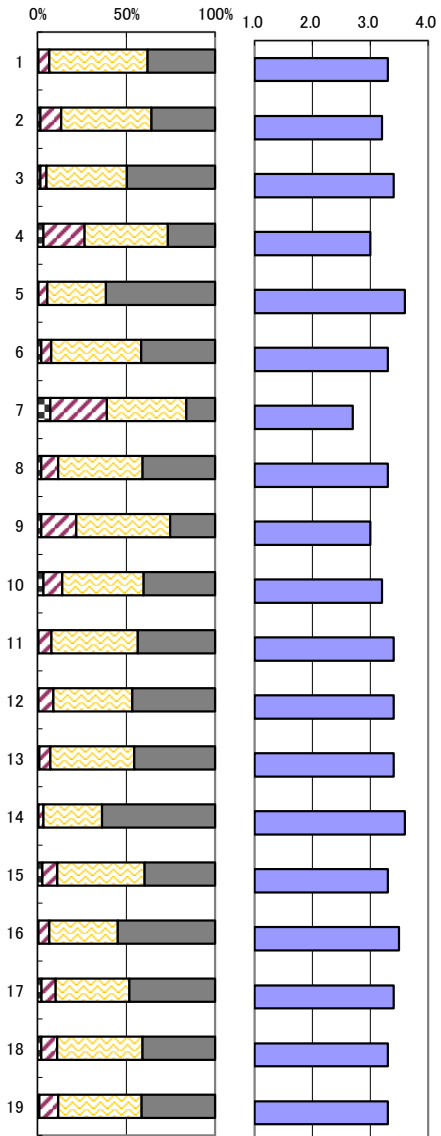
- ・本校の魅力づくりについては、令和6年度から導入を始めるIB教育について、全職員が理解をさらに深め、目指す生徒像を基軸とした授業づくりを次年度から推進していく。また、地域の学校、教育機関、保護者等への周知・啓発活動をさらに進め、他校にはない本校独自の教育活動について情報を発信していく。
- ・宅習時間については、毎朝の振り返りシートの活用方法を再検討するとともに、授業改善にも生かしていく。
- ・生徒指導においては、日常的な挨拶や自転車利用時のマナー等への指導を重視し、心身ともに健全な生徒の育成を進める。
- ・防災教育においては、近隣学校や住民と連携した住民参加型の防災訓練の実施を検討する。
- ・業務改善や働き方改革の推進については、タイムカード等による勤務時間の適正管理を進めるとともに、ICTを活用した業務の効率化、SCやSSW、部活動指導員(外部コーチも含む)の積極的な活用を進めていく。

令和5年度 学校評価 集計表 <生徒>(中学校)

① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回 答 数	平 均	R 4 平 均
----------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------	--------	------------------



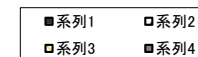
① 知の触発プログラム、ビブリオバトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	0.6	6.1	55.3	38.0	179	3.3	3.3
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	1.7	11.7	50.8	35.8	179	3.2	3.2
③ 八代中には、他の学校にはない校風・特色がある。	1.7	3.4	45.3	49.7	179	3.4	3.5
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	3.4	23.2	46.9	26.6	177	3.0	3.1
⑤ 学校では、生徒同士で学び合う場面の設定や、積極的にICTを活用した授業が行われている。	0.6	5.0	33.0	61.5	179	3.6	3.6
⑥ 学校では、生徒の学力を伸ばす様々な工夫を行ってくれている。	2.2	5.6	50.6	41.6	178	3.3	3.4
⑦ 私は、目標とする家庭学習時間を確保できている。	7.3	31.8	44.7	16.2	179	2.7	2.6
⑧ 学校では、総合的な学習の時間や学活などで、自らの進路を考える活動が行われている。	2.2	9.5	47.5	40.8	179	3.3	3.4
⑨ 学校では、進路に関する情報をわかりやすく提供してくれる。	2.2	19.7	52.8	25.3	178	3.0	3.2
⑩ 学校では、先生方の共通理解のもと、不公平感のない生徒指導が行われている。	3.4	10.6	45.8	40.2	179	3.2	3.3
⑪ 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を心がけている。	0.6	7.3	48.6	43.5	177	3.4	3.3
⑫ 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	0.6	8.4	44.4	46.6	178	3.4	3.3
⑬ 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	1.1	6.2	47.2	45.5	178	3.4	3.4
⑭ 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	0.6	2.8	33.0	63.7	179	3.6	3.7
⑮ 先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる。	2.8	8.4	49.2	39.7	179	3.3	3.3
⑯ 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	0.6	6.1	38.5	54.7	179	3.5	3.4
⑰ 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	2.3	8.0	41.5	48.3	176	3.4	3.3
⑱ 総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動が行われている。	2.2	8.9	48.0	40.8	179	3.3	3.4
⑲ 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。	1.1	10.6	46.9	41.3	179	3.3	3.4



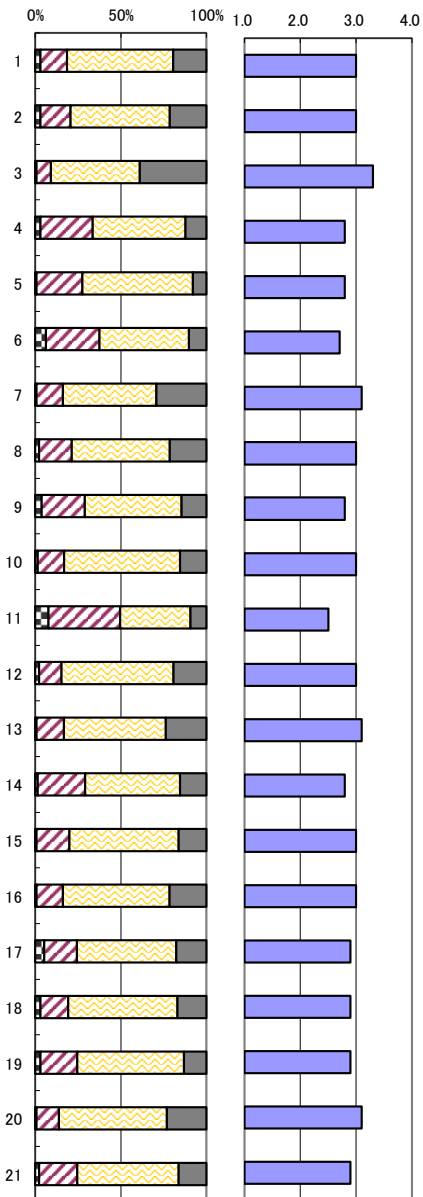
(%) (人)

令和5年度 学校評価 集計表 <保護者>(中学校)

① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回 答 数	平 均	R 4 平 均
----------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------	--------	------------------



① 知の触発プログラム、ビブリオバトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	3.1	15.5	62.0	19.4	129	3.0	3.3
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	3.1	17.6	58.0	21.4	131	3.0	3.2
③ 八代中には、他の学校にはない校風・特色がある。	0.8	8.4	51.9	38.9	131	3.3	3.4
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	3.1	30.5	54.2	12.2	131	2.8	3.0
⑤ 学校における働き方改革が推進され、職員の勤務時間の適正化、心身の健康の維持増進が図られていると感じる。	0.8	26.8	64.6	7.9	127	2.8	—
⑥ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	6.3	31.3	52.3	10.2	128	2.7	2.8
⑦ 学校は、保護者に授業参観や公開授業の機会を適切に設けている。	0.8	15.4	54.6	29.2	130	3.1	3.3
⑧ 学校は、生徒の学力を伸ばす様々な工夫を行っている。	2.3	19.1	57.3	21.4	131	3.0	3.0
⑨ 学校は、生徒の学習意欲を喚起する取組を行っている。	3.8	25.2	56.5	14.5	131	2.8	2.9
⑩ 学校では、学年の段階に応じて、総合的な学習の時間や学活などを通して、生徒が自らの進路を考えるための取組を行っている。	1.5	15.4	67.7	15.4	130	3.0	3.1
⑪ 学校は、進路に関する情報を保護者に適切に提供している。	7.8	41.9	41.1	9.3	129	2.5	2.7
⑫ 学校は、生徒の実態や人権尊重の立場から適切な校則を設けている。	2.3	13.1	65.4	19.2	130	3.0	3.2
⑬ 子どもは、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶をしている。	0.8	16.0	59.5	23.7	131	3.1	3.1
⑭ 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	1.5	27.7	55.4	15.4	130	2.8	2.8
⑮ 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	0.8	19.2	63.8	16.2	130	3.0	3.1
⑯ 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	0.8	15.4	62.3	21.5	130	3.0	3.2
⑰ 先生方は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる。	5.3	19.1	58.0	17.6	131	2.9	3.2
⑱ 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	3.1	16.2	63.8	16.9	130	2.9	3.1
⑲ 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	3.1	21.5	62.3	13.1	130	2.9	2.9
⑳ 総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動が行われている。	0.8	13.1	63.1	23.1	130	3.1	3.2
㉑ 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。	2.3	22.3	59.2	16.2	130	2.9	3.1



(%) (人)

令和5年度 学校評価 集計表 <教職員>(中学)

① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回 答 数	平 均	R 4 平 均
----------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------------	-------------	--------	------------------



① 知の触発プログラム、ピブリオバトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	5.6	5.6	44.4	44.4	18	3.3	3.8
② 学校は、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介を行っている。	0.0	5.6	61.1	33.3	18	3.3	3.4
③ 中高一貫教育校としての組織体系が確立され、中高連携の取組が円滑に行われている。	5.6	38.9	50.0	5.6	18	2.6	3.0
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	0.0	5.6	77.8	16.7	18	3.1	3.2
⑤ タイムカード等による勤務時間の適正管理、管理職や産業医による面接体制が整っている。	0.0	22.2	50.0	27.8	18	3.1	3.0
⑥ Googleアプリを活用した情報共有により、業務効率化が図られている。	0.0	33.3	50.0	16.7	18	2.8	2.8
⑦ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	0.0	11.1	50.0	38.9	18	3.3	3.4
⑧ 学校は、授業力向上のための教科等研修会に参加する機会を適切に提供している。	0.0	11.1	66.7	22.2	18	3.1	3.2
⑨ 私は、職員間の授業見学や生徒による授業評価等を通して、授業改善に取り組んでいる。	0.0	12.5	62.5	25.0	16	3.1	3.1
⑩ 私は、宅習時間調査の結果を、家庭学習や読書等の指導に活用している。	13.3	66.7	20.0	0.0	15	2.1	3.0
⑪ 私は、学年の段階に応じて、総合的な学習の時間や学活などを通して、生徒が自らの進路を考える取組を行っている。	6.3	6.3	62.5	25.0	16	3.1	3.0
⑫ 私は、進路に関する情報を生徒及び保護者に対し適切に提供している。	6.3	18.8	68.8	6.3	16	2.8	2.5
⑬ 職員の共通理解を図り、学校として統一した生徒指導が行われている。	0.0	27.8	61.1	11.1	18	2.8	2.9
⑭ 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を指導している。	0.0	5.9	70.6	23.5	17	3.2	3.3
⑮ 学校は、交通安全についての啓発活動を行っている。	0.0	0.0	77.8	22.2	18	3.2	3.4
⑯ 学校は、情報モラル教育を計画的に行っている。	0.0	5.6	77.8	16.7	18	3.1	3.2
⑰ 学校は、生徒及び職員の人権意識の高揚を図る取組を適切に行っている。	0.0	5.6	50.0	44.4	18	3.4	3.5
⑱ 生徒理解研修等を通して、支援を要する生徒の実態把握と共通理解が図られている。	0.0	0.0	55.6	44.4	18	3.4	3.5
⑲ 個別の教育支援計画及び指導計画をもとに、必要な支援を適切に行っている。	0.0	5.9	47.1	47.1	17	3.4	3.3
⑳ 学校では、命を大切にすることを育む教育を適切に行っている。	0.0	11.1	50.0	38.9	18	3.3	3.2
㉑ 学校でのさまざまな活動において、いじめを防止する取組や配慮がなされている。	0.0	11.1	55.6	33.3	18	3.2	3.3
㉒ 学校は、総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動を推進している。	0.0	0.0	38.9	61.1	18	3.6	3.5
㉓ 学校では、防災に関する取組を計画的に行っている。	0.0	0.0	44.4	55.6	18	3.6	3.5

